

あべともこニュース

戦争回避のために、政治の弛まぬ努力を。

◆二つの代表選、時代の転換点に

この秋は自民党の総裁選挙と立憲民主党の代表選挙が行われます。政権交代もありうるとして、次の総理を選ぶ？選挙とも言われています。

確かに、今度の選挙は与野党の代表を選ぶに止まらない、時代の選択になるもので、まずその第一は、戦争を回避する為の外交です。

ロシアのウクライナ侵攻や、イスラエルのジェノサイド、中東地域への戦闘拡大など、極めて不穏な国際情勢です。我が国は台湾有事に煽られず、中国始め北東アジアの国々との対話をどう進めるのか、また、ASEAN諸国との外交や経済協力をどう進めるのか、代表選では是非言及すべきです。

地球温暖化の進行と災害の多発、株価や為替の不安定の中での経済の再生、エネルギー、人口減少と社会保障、食料自給率の改善なども課題です。

そもそも政治と金、政治と宗教、いずれも未解決、そして何よりも新たな時代はジェンダー平等、女性やマイノリティの参加をどう実現するかです。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川12区（藤沢市・寒川町）
 当選8回、東京大学医学部卒業、
 小児科医、あべともこ子ども
 クリニック（湘南台）理事長
 現在、厚生労働委員会
 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
 公式X (旧Twitter)
 @abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所
 公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索



◆二つの被爆地の決断、核兵器の悲惨を許さず

今年の広島、長崎の原爆犠牲者追悼、平和記念式典は、これまでにない緊張感の中で開催。広島では、パレスチナガザ地区へのジェノサイドを続けるイスラエルを招待した事に、市への抗議や周辺での抗議行動、長崎ではイスラエルを招待しない事に反発したG7が出席を見合わせるなど異例の事態となりました。日本の被爆者運動はただひたすら原爆投下の悲惨を自らに背負い、長崎を最後の被爆地にと、報復よりも人道への罪を繰り返させない事を世界に訴え続けてきたと思います。原爆は、大量無差別殺戮であり、ジュネーブ条約やジェノサイド条約違反です。日本政府は核兵器禁止条約にオブザーバー参加すらせず、ジェノサイド条約もまた批准していません。言葉だけではない、核廃絶の為に真剣な努力をすべきです。

藤沢からは、広島・長崎、各々21人の子どもたちが今年も現地を訪れ、核兵器廃絶の思いを新たにしました。

◆今度は自衛隊基地からPFAS汚染

9日、千葉県鎌ヶ谷市へ。同地では、10年以上も前から、下総航空基地周辺の河川からのPFAS汚染が発覚しています。隣接する柏市と白井市、そして県が対策に当たっているところですが、同日に県が発表した調査では、最大21,000ng (PFOA・PFOS合算値) という脅威的な数値が検出されました。汚染源はほぼ基地とされませんが、すでにPFASを含む泡消火剤は使用していないはずなのに、なぜ高濃度検出なのか？かつての消化訓練が原因では？それが、フォーエバー・ケミカルと呼ばれる所以です。

他方、大阪摂津でも昨秋頃から実施されていた血液検査の結果が発表され、1190人のうち31%に当たる364人が米国基準の健康リスクが懸念される値を上回ることがわかりました。加えて、当該工場の元従業員から約610ngが検出されています。

国は早急に汚染源の特定、血液検査の実施、そしてこれからも汚染が続くことがないよう、排水基準を設定するなど多岐にわたる対策を講ずるべきです。



視察の様子；右から宮川伸総支部長（千葉13区）、藤代元県議、河内鎌ヶ谷市議